

復興を歩む

vol.20

松塚地区のメガソーラー

松塚地区で、大規模太陽光発電施設（メガソーラー）の建設が進んでいます。

この事業は、耕作できない農地を活用したいという住民の声を受けて始まりました。村は、平成26年に、株式会社NTTファシリティーズと協定を締結。同社が発電事業の主体となり、約31万平方メートル（約31ヘクタール）の農地に約7万5000枚の太陽光パネルを設置しています。設置完了後は、年間約24メガワット（一般家庭6000世帯分）の発電を行います。

工事は平成27年の9月に始まりました。発電開始は平成29年8月を予定しており、以後20年間にわたって運用される予定です。

松塚地区では、発電で得られる再生可能エネルギーと、発電収益の一部を活用し、村の復興モデル地区として、営農再開の推進に取り組めます。関根・松塚行政区では、どのような形で発電事業と農業を結びつけていくか、実際に営農を再開する農家の意見や希望を取り入れながら進めていきたいと考えています。

来年3月末に見込まれる避難指示解除後、トルコギキョウ等の花き栽培を村内で再開する農家が、村が整備したパイプハウスで栽培準備を進めています。カスミソウの栽培・出荷に取り組むグループも、試験栽培を行い、さらには栽培講習会を開催するなどして準備を進めています。

また、地区内では、県による「水田放牧」の実証も始まりました。水田に牧草の播種を行い、来年は親牛を6頭程度飼育する予定です。村としては、再来年の同地区での水田放牧型和牛飼養の再開を目指して、国・県等と協働していく方針です。

村民の意欲が、農業の再生を牽引しています。先駆的な取り組みを、村も全力で支援していきます。

紅葉が日一日と深まっていた11月2日。稲葉山の高台から見た松塚地区のようすです。建設が進むメガソーラーの発電パネルは、この左右にさらに大きく広がっています。右端に見えているハウスでは、高橋日出夫さん・民さん夫婦（関根・松塚）が、トルコギキョウやアルストロメリアなどの花き栽培を再開するため準備を進めています。その東側（右側）が、水田放牧の実証地で、牧草が播種されています。正面奥の農地には、緑肥作物のキャラシが播種されていて、春には一面に黄色い花畑がお目見えする予定です。